

## 編集後記

暦のうえでは春になりましたが、まだまだ寒い日が続いています。とはいえ、春らしい陽光の煌めく日差しを本格的に実感できるまであと僅かです。年度末の忙しい時期ではありますが、先生方におかれましてはこの寒さに負けず、日々業務に励んでいることと思います。

『工業教育やまがた55号』ができあがりました。お忙しい中執筆していただきました先生方、本当にありがとうございます。今号も諸先生方より玉稿を頂戴いたしました。

掲載された各関係部会発表や特別研究委員会の報告、各校ニュースなどから、教育は学生に価値を見出すことであり、研究は現実社会に意味や価値を見出す営みであることを再確認できます。特に工業教育においては課題や問題を洗い出し、成果まで導き出すだけでは留まりません。科学に裏付けられた技術である工学は大きな影響力を持つため、工学の力を使う者はその力の影響や限界を社会に対して説明する責任を負っています。自分の成果を分かり易く相手に伝え、また説明責任を果たすこと無しには、現在の工業は成り立たないため、技術・技能の習得のみならず、実社会で活躍できる力強い人間力も必要となってきます。そのため、社会力・人間力向上の指導も重要です。

学校現場におけるいわゆる『ゆとり』について、基礎学力低下のイメージが強いためか、否定的な意味合いとして使用されるようになってしまった場面が多いものの、多忙の中においても心にゆとりを持ち、価値を見出したものを楽しむ心を忘れず、工業教育を学ぶ生徒達と共に人生を豊かなものにしていきたいと思う今日この頃でした。

平成29年度工業部会事務局